

平成29年度 会派調査研究報告書

(研修先1箇所につき1枚)

| | |
|---------|---|
| 会 派 名 | 日本共産党 |
| 事 業 名 | 第9回生活保護問題議員研修会 「貧困対策はどこに向かうのか 長野で生活保護を考える」 |
| 事 業 区 分 | ①研究研修 ②調 査 |

1 上田市での課題と研修・調査の目的

生活保護の理念、歴史、制度のあらまし、現場で起きていること、議員（議会）として当該の自治体をチェックするポイントについて学び上田市政に活かしていく。

2 実施概要

| | | |
|---|-----|------------------------------------|
| 実施日時 | 主 催 | 生活保護問題対策全国会議、全国公的扶助研究会 |
| 平成29年8月25日 13:00～17:40 平成29年8月26日 9:15～15:00 | 会 場 | 長野県長野市若里 4-17-1 信州大学長野（工学）キャンパス |

報
告
内
容

1 実施概要（研修会概要及び2日間の日程は次のとおりです。）



《参加議員》

渡辺正博議員、久保田由夫議員、
古市順子議員、成瀬 拓議員
(以上4名)

(1) 基調報告：

生活保護の動向と生存権の保障
講師：吉永 純氏（花園大学）

《主な内容》

- ア 「一億総貧困時代」と社会保障の後退
 - ・ 貧困率（特徴）
 - ・ 高齢者、障害者の貧困
 - ・ 最近の保護率
 - ・ 重税地獄
 - イ 生活保護の現状と行方
 - ウ 地方議員の役割と期待
- おわりに
以上の項目で講演されました。

地方議員の役割と期待について

- ① 生活保護の最大限活用（自治体の生活保護行政チェック）
- ② 貧困対策～子どもの貧困調査と計画の策定
- ③ 生活困窮者支援(含む生活保護)の本格的実施
という内容でした。



(2) 講演1：メディアから読み取る「生活保護と子どもの貧困」

講師：さいき まこ氏（漫画家）

《主な内容》

- ア 「生活保護」「貧困」をマンガで描くようになった理由
- イ 「生活保護」から「子どもの貧困」へ
- ウ 「貧困」といえば「生活保護」？
- エ 自己責任論の根底にあるのは何か
- オ どんな支援が必要なのか
- カ なぜ「貧困」になってしまうのか



(さいき まこ氏)

以上の項目で講演されました。

報
告
内
容

(3) 講演2：医療現場から見える子どもの貧困

講師：和田 浩氏

(長野県飯田市 健和会病院小児科医師)

《主な内容》

- ア 貧困の子どもへの影響
- イ 私の貧困問題の取り組み
- ウ なぜ医療現場では子どもの貧困が見えにくいのか？
- エ 医療者に何ができるか？
- オ 子どもの医療費窓口無料化
- カ 小児科医と議員はどう連携できるか



(和田 浩氏)

まとめ


以上の項目で講演されました。

(4) 特別報告1：当事者の声を聞く～生活保護世帯実態調査を踏まえて

講師：鮎澤 ゆかり氏（上伊那生協病院 医療相談室 医療ソーシャルワーカー）

《主な内容》

生活保護の利用者の実態（1日2食以下 27%、教育娯楽費ゼロ 38%、理美容室利用年ゼロ回 26%）など、生活保護世帯の厳しい生活が明らかになった長野民医連生活保護世帯調査を紹介するとともに、利用者の声について講演された。

| | | |
|--------------------------|---|--|
| 報告内容 | <p>(5) 特別報告2：私のまちの生活保護～議員としてのチェックポイント～ 講師：横山 秀昭氏 (神奈川県横浜市福祉保健センター ソーシャルワーカー)</p>  <p>《主な内容》 生活保護に関して ア アクセスのしやすさ イ 相談・申請のしやすさ ウ 利用中の相談支援を受けやすさ</p> <p>以上の項目で、講演されました。</p> | |
| | 実施日時 | 内容 |
| 平成29年8月26日 9:15～15:00 | 会場 | 分科会、講演3、まとめ 長野県長野市若里4-17-1 信州大学長野(工学)キャンパス |
| 報告内容 | 1 分科会実施概要 | |
| | (1) 分科会参加報告 | |
| | 分科会 | テーマ・講師・主な内容 |
| 第1分科会 | <p>テーマ：生活保護なんでもQ&A 講師：鷲本 郁氏(元神戸市職員) 講師：谷口 伊三美氏(生活保護ケースワーカー養成講座代表) 講師：森 弘典氏(弁護士)</p> <p>《主な内容》 生活保護制度の現状、生活保護制度のあらまし、申請から決定まで、生活ほどと高校・大学、生活保護こんな場合は利用できる？ こんな時は？Q&A</p> | 成瀬 拓議員 |
| 第2分科会 | <p>テーマ：生活困窮者自立支援制度は機能しているか 講師：今井 伸氏(田園調布学園大学教授ほか) 講師：仲野 浩司郎氏(羽曳野市主任相談支援員) 講師：小久保 哲郎氏(弁護士ほか)</p> <p>《主な内容》 生活困窮者自立支援法が施行されて2年が経ち、制度の要となる自立相談支援機関に求められる役割について、また、住居確保給付金や家計相談、各種就労支援など本制度が生活困窮者への有効な支援として機能するためには、どうすればよいのか。実践現場に即した課題等の事例紹介と問題提起し、解決の方向性を検討する。</p> | 古市順子議員 |

| 分科会 | テーマ・講師・主な内容 | 参加議員名 |
|-------|---|---------|
| 第3分科会 | <p>テーマ：子どもの貧困と自治体のとりくみ</p> <p>講師：徳丸 ゆき子氏（大阪子どもの貧困アクショングループほか）</p> <p>講師：田丸 英信氏（元世田谷区職員ほか）</p> <p>《主な内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの貧困」に関わり、現場で起きていることを告発。だれもが自由にSOSを出せる共生型社会を作るための実践活動を紹介し、今の社会のあり方を問うもの。 ・生活保護法での義務教育、高校生、大学への扶助、貧困の連鎖を避けるために、自治体でできることは何か～など | 久保田由夫議員 |
| 第4分科会 | <p>テーマ：自治体で考える住宅セーフティネット</p> <p>講師：山田 壮志郎氏（日本福祉大学準教授ほか）</p> <p>講師：芝田 淳氏（NPO法人やどかりサポート鹿児島理事長ほか）</p> <p>《主な内容》</p> <p>高齢者、障がい者、母子家庭、低所得者など誰もが排除されることなく安心して住み続けられる「住」を確保できる社会的なしくみが切実に求められており、住宅・福祉行政との連携や官民が協働するネットワークづくり、貧困ビジネスの規制など居住支援と住宅セーフティネットの現在の課題を探る。</p> | 渡辺正博議員 |
| 第5分科会 | <p>テーマ：低所得者への医療保障（国保・無料低額診療事業）を考える</p> <p>講師：鮎澤 ゆかり氏（上伊那生協病院医療相談室 医療ソーシャルワーカー）</p> <p>講師：寺内 順子氏（大阪社会保障推進協議会事務局長）</p> <p>講師：吉永 純氏（全国公的扶助研究会会長ほか）</p> <p>《主な内容》</p> <p>国保と生活保護の狭間で医療を受ける権利を侵害されている実態を医療現場から報告するとともに、国保料引き下げの展望、正規保険証の取り上げを許さない取り組み、2018年度からの国保都道府県単位化などの影響を検討し、国保からの排除層の受け皿となっている無料定額診療事業の拡大のための方策を考える。</p> | （参加者なし） |

(2) 講演3:「誰もが受益者」という財政戦略

講師:井手 英策氏(慶応義塾大学経済学部教授)

《主な内容》

- ア いつまで成長に頼ればよいのか?
- イ 頼り合える社会への項目で講演されました



(井手 英策氏)

(3) まとめ:今こそ生きる権利の確立を

講師:尾藤 廣喜氏(弁護士、生活保護問題対策全国会議代表幹事)

《主な内容》

- ア 社会保障をとりまく状況
- イ 日本の貧困と格差拡大の現状
- ウ 貧困と格差が広がる中で本来「国」「地方自治体」がなすべきこと
- エ 社会保障はどうなっており、どう動こうとしているかという内容で、講演されました。



(尾藤 廣喜氏)

2 全体を通してのまとめ(上田市政に活かせる課題等)

生活保護、生活困窮者、貧困問題、子どもの貧困、社会保障制度など各方面から様々な角度から報告されて、内容が豊富でした。研修会の内容を整理して、上田市政にどう活かすかのヒントをもらいました。生活保護や子どもの貧困は見えない貧困といわれますが、今回の研修会では様々な事例が報告されたことにより、上田市としてどのようにアプローチしていくか提案をしていきたいと思えます。

* 研修先の写真等がある場合は添付のこと